

北海道大学 医学部 形成外科
同門会・教室年報 2022

ANNUAL REPORT 2022

Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine, The University of Hokkaido at Sapporo



北海道大学 医学部 形成外科

同門会・教室年報 2022

ANNUAL REPORT 2022



同門会忘年会 (2022年12月10日 於 京王プラザホテル札幌)



教室員 (2022年12月6日 於 医学部学友会館「フラテ」)

同門会会長挨拶

瞼の父を目指して (2)

野平 久仁彦

北海道大学医学部形成外科同門会 会長
蘇春堂形成外科 理事長



同門会の皆様、2022年度もコロナ禍が続きましたがお元気でしたでしょうか。私自身は不覚にも年末にコロナに罹り、1週間の臥床を余儀なくされました。5回目のワクチン接種の案内は来ていましたが、最近の変異株は症状が軽いらしいという情報を鵜呑みにして、油断していました。幸い発熱は38度止まりでしたが、咳が出て何とも不快でした。症状はインフルエンザと同じくらいの感覚で、3日もすると体調は回復しましたが、仕事に出られず10数件の手術をキャンセルせざるを得ませんでした。その後、年末の休みを返上して手術をしましたが、休みの強制には参りました。

さて今回は瞼の話の続きでCO₂レーザーについてお話しします。2014年のことです。CAOS21の会という眼科の開業医が20人くらい集まり、全国の眼科のクリニックを訪ねて手術見学をするという、20年以上続くユニークな勉強会があります。そこから私に声がかかりました。札幌の大橋眼科に年に数回手術に来ている、横浜にある岡田眼科の宮田信之先生がCO₂レーザーを使った眼瞼下垂手術を行うので、それを見た後、蘇春堂に私の手術を見学に来たいとの申し出です。さて当日、午前中は大橋眼科に宮田先生の眼瞼下垂手術を見学に行きました。無血手術で手際良く進行し、20分くらいでミューラタックを終了しました。手術の速さと、出血がないことに驚きました。午後は蘇春堂に大挙して眼科の先生達が見学に来ました。私は患者さんを坐位にしてブジーを使って術前のデザインをしますが、眼科では手術ベッドに寝かせて皮膚を鑷子でつまんで皮膚切除の量を決めます。術前に坐位で適切な重瞼幅を患者さんの好みを聞いて決めるという美容外科の概念は眼科には皆無でした。私は当時、モノポーラ鑷子を使って腱膜前転をしていました。しかも皮下縫合による重瞼固定を7箇所入れるので、手術は50分くらいかかりました。その日は3例の手術を行いました。夕方はホテルの会場に移動して、今日行った手術について参加者全員でディスカッションを行いました。眼科では宮田先生の影響でミューラタックを行う先生が結構いることが分かりました。この会を通してCO₂レーザーの威力を目の当たりにしましたので、ぜひ習得したいと思いました。正に60の手習いです。

装置はエムエムアンドニーク社のLasery 15Z μ で、最小スポット径が0.2mmと細く、アームが軽いので操作性が非常に優れています。他社のも試してみましたが、操作性が悪く手術には使えないものでした。宮田先生が札幌に定期的に手術に来られていたので、その都度手術を見学に行きました。彼は出力を10Wに上げ連続波で使用していたので、出血はほとんどしません。しかし創縁の焼け焦げが強く、無血手術をキャッチフリーズにしていたのですが、焼き過ぎの印象がありました。私は6Wのスーパーパルスモードを使用していますが、焼け焦げは少なく非常にシャープに切れますので、特に眼瞼の二次修正手術などのように瘢痕形成が強い場合には非常に重宝します。今までの電気メスでは瘢痕はあまり切れませんでしたが、CO₂レーザーを使うようになってから、二次修正手術のストレスがなくなりました。腱膜前転の平均手術時間はモノポーラ鑷子を用いていた時は50分、CO₂レーザーを用いるようになってからは40分に短縮できました。ただ20代の若い人では皮膚をレーザーで切ると瘢痕の赤みが少し出ますので、皮切はメスで行い、その後の操作にCO₂レーザーを使っています。これはミューラ筋と結膜の間の剥離が必要な症例にも用いますが、照射角度を1~2度にして、結膜裏面を滑らせるようにすると結膜に穴を開けずに剥離することができます。レーザーは非接触デバイスですので、皮膚や組織から微妙に浮かして操作する必要があります。近づけるとシャープに切れ、離してデフォーカスすると幅広く切れます。慣れるまで時間がかかりますが、メスや電気メスに代わる大変有用な器械です。続きはまた次回にします。

教授挨拶

山本 有平

北海道大学医学部形成外科学教室 代表
北海道大学大学院医学研究院・医学部
形成外科学教室 主任教授



本年4月より、GMとして教室をしっかりとまとめて頂いている、舟山恵美医学研究院准教授・病院診療教授を除いて、教室運営を担う教員スタッフに大きな動きがありました。前田 拓先生が病院講師・診療准教授に、石川耕資先生が医学研究院助教に配置換・病院診療講師に昇任されました。そして、三浦隆洋先生が病院助教に採用され、新しいメンバーとして加わりました。皆様方には非常に若返りの感を持たれることと存じます。ここで、私から、この3名の新スタッフを始めとして、これからの将来を担っていく若い教室員達に次の言葉を贈りたいと思います。

～自信には2種類ある。若く、経験の無い者は、自信が無ければ何もできない。“自分出来る”という自信を持つ事により、新しい事に挑戦できる。そして、齢を重ねていく事により、“本当の自信”というものは、経験からこそ得るものだと分かる。

それぞれ、自信を持って、診療・研究・教育業務に幅広く頑張って下さい、大いに期待しております。

大学院におきましては、三浦隆洋先生、草島英梨香先生が卒業され、博士(医学)学位を取得しました。また、新たに、石井 陸先生、佐々木雄輝先生、竹田朋弘先生が、立派な成績で日本形成外科学会認定専門医を取得しました。是非ともさらなる精進を重ねて下さい。

さて、本年8月、札幌にて開催された、第4回Wound bed preparation研究会では、ご多忙の中、当教室から輩出された、筑波大学形成外科 関堂 充教授、福島医科大学形成外科 小山明彦教授、愛知医科大学形成外科 古川洋志教授、旭川医科大学形成外科 林 利彦教授、全員が参加され、同門の絆をさらに深める機会を得ることができました。嬉しい限りでございます。

そして9月22～23日には、私が北海道大学形成外科教授として、最後の全国学会開催の勤となる、第45回日本美容外科学会総会・第145回学術集会を主催致しました。これまで、本学会総会を主催いたしますのは、1991年に大浦武彦名誉会員が主催した第14回、2007年に新富芳尚最高顧問が主催した第30回、2017年に野平久仁彦会長が主催した第40回以来、4回目となり、北海道大学医学部形成外科同門会にとりまして大いなる誉でございます。ここで、本学会期中に行われた、社員懇親会における自身の会長挨拶から、一部抜粋させて頂きたく存じます。

～昨年形成外科を選択科実習とした医学生より提出された、非常に印象深いレポートを紹介いたします。
“成績が下がる事を開き直った上で言うと、形成外科の認知度はあまり高くない。その理由の一つに、美容外科分野において、「美容整形」などという言葉の誤用が多い点が挙げられる。美容診療を行うことを「整形する」と言うくらい、整形外科と混同する一因になっている。今後訂正していくのは非常に困難であると思えるが、正しい認識を広める努力も必要になると考える。”

このように、我が国では、美容外科分野において、マスコミを中心として、“美容整形”という言葉が頻用され、広く市民権を得ています。一般の方々には、美容診療を受けること、イコール“整形する”と言われている現状があります。私は、形成外科医を志して、蘇春堂の新富芳尚先生と野平久仁彦先生の下で美容外科を勉強する機会を得て、その後、北海道大学病院で整容・美容外科を開設しました。その過程で、絶えず思ってきた事があります。それは、世の中の多くの人達が、色々なsurgical & non-surgical施術を受けて美しくなっていく、若返っていく治療、それを包括した呼称は、“美容整形”ではなく、“美容形成”が最もふさわしいのではないかと。今後、将来において“美容形成”という言葉が、広く社会に浸透していく時代になる事を願い、この度、私は、本総会・学術集会のシンボルロゴとして、非常にシンプルな4文字“美容形成”を掲げました。さらに、これからの新たな専門医制度に向けて、美容外科が形成外科の真の2階立てに位置していく強い思いも込めております。

おかげさまで、学術集会は大いなる成功を取める事ができました。多くの方々からご協力、ご支援を賜り、そのご厚情に心から感謝申し上げます。

目次

巻頭言

- 同門会会長挨拶／野平久仁彦 [i]
教授挨拶／山本有平 [ii]

沿革 001

- 歴代教授 歴代同門会会長
同門会役員 教員スタッフ 002
主な主催全国学会 003

同門だより 004

- 愛犬と共に歩む生活／大浦武彦 005
2020～2022年の木村 中／木村 中 006
今年も中止のレースが多かった／川嶋邦裕 008
BRAVE UKRAINE／村住昌彦 009
最後の専門医／関堂 充 011
“FACEs Workshop”／小山明彦 013
オペ室の新しいかたち？／舟山恵美 015
御報告と御礼／古川洋志 017
旭川医大形成外科の近況報告／林 利彦 018
尿管結石になりました／前田 拓 019
形成外科北海道地方会の歴史／石川耕資 021
コロナ禍における我が家の緊急事態／高橋周子 022
私が思う英語論文の書き方／草島英梨香 023
この1年の変化…／三浦隆洋 026
メモ／星野善允 027
真夜中のPCR／石井浩子 028
キャンプ道具をDIY～スノーピークは高すぎる～／石井 陸 029
消えた時間と空間／徐 東経 031
Ask, and it will be given to you.／福田摩莉佳 032
避寒豪遊記／佐藤航司 033
どさんこの知らない北海道の魅力／山形孝介 034
新入教室員挨拶／市村祐人・大塚一輝 035
／辻野紘史 036
／高野英華・前田史名 037

年譜 038

- 教室年譜2022 039
第103回北日本形成外科学会北海道地方会 040
第40回日本臨床皮膚外科学会総会・学術大会 040
形成外科研修説明会 041
第4回WOUND BED PREPARATION研究会 041
第45回日本美容外科学会総会・第145回学術集会 042
同門会忘年会 045
教室仕事納め会 045

教室年間活動 研究 046

- 北大形成外科カンファレンス 047
Manifesto 2022 051
業績一覧 053
UHS English Literature PDF Library 057
参加学会一覧 058
学位取得者および学位論文の要旨／草島英梨香 061
大学院生研究室だより 063
北海道大学博士学位取得者一覧 064
研究費採択状況一覧 065
北成賞 067

教室年間活動 教育 068

- 講義・試験 069
臨床実習 069
臨床実習口演一覧 071
北海道大学形成外科専門研修プログラム 073
／形成外科医育成“グランドデザイン” 073
／PRS residency file 075
／専攻医教育セミナー 077
日本形成外科学会専門医取得者～10症例・論文 078
北大形成外科アカデミー 079
特定分野指導医・Subspecialty学会専門医取得者一覧 083

教室年間活動 診療	084	教室年間活動 レクリエーション	112
北海道大学形成外科専門研修プログラム施設群	085	The Party 2022	113
専門研修基幹施設／北海道大学病院	086	ゴルフコンペ“北大形成外科選手権” 2022	114
専門研修連携施設／市立札幌病院	088	ゴルフコンペ“北大形成外科THE OPEN” 2022	114
時計台記念病院	089	6時間リレーマラソン in 札幌ドーム 2022	115
斗南病院	090		
手稻溪仁会病院	093	その他・一覧	116
北海道がんセンター	094	同門会構成員・教室スタッフ	117
日鋼記念病院	094	客員研究員・非常勤講師	118
苫小牧日翔病院	095	北海道大学病院 客員臨床教授	118
函館中央病院	096	A会員勤務施設一覧	119
市立函館病院	097	名誉会員勤務施設一覧・物故会員	120
帯広厚生病院	098	教育研修施設一覧	121
北見赤十字病院	099	学会役員・委員一覧	122
青森新都市病院	100	同門会規約・教室総則	123
専門研修連携候補施設／森山病院	100		
市立釧路総合病院	101		
教育研修施設（常勤）／蘇春堂形成外科	102		
（非常勤）／褥瘡・創傷治癒研究所	103		
桑園中央病院	104		
天使病院	104		
愛全病院	105		
千歳皮膚科形成外科クリニック	105		
北海道せき損センター	106		
岩見沢市立総合病院	106		
苫小牧市立病院	107		
旭川厚生病院	107		
釧路労災病院	108		
他形成外科専門研修プログラム 相互連携施設			
愛知医科大学病院	109		
旭川医科大学病院	111		
福島県立医科大学附属病院	111		

北海道大学医学部形成外科学教室：北大形成外科の歴史は、初代教授、現北海道大学名誉教授である大浦武彦に始まる。大浦は、当時日本で唯一の形成外科診療科があった東京警察病院の故大森清一先生のもとで形成外科を研修した後、1965（昭和40）年4月に北海道大学医学部皮膚科学教室三浦祐晶教授のご配慮により形成外科診療班をつくり、医学部附属病院皮膚科で形成外科の診療を開始した。

1978（昭和53）年6月には、その後の積極的な診療活動および当時の文部省、大蔵省への働きかけにより、北海道大学医学部附属病院に形成外科診療科が新設され、大浦が北海道大学医学部形成外科初代教授に選任された。教室定員は5であった。

1985（昭和60）年5月には、北海道大学医学部形成外科同門会が設立され、初代会長には浜本淳二が選出された。

1987（昭和62）年4月には、北海道大学医学部附属病院形成外科における臨床・研究両面にわたる実績が認められ、北海道大学医学部に形成外科学講座が新設された。

1995（平成7）年9月には、杉原平樹が第2代教授に就任し、同年12月より、新富芳尚が第2代同門会会長となった。

2005（平成17）年4月には、山本有平が第3代教授に就任した。

2007（平成19）年12月より、吉田哲憲が第3代同門会会長となった。

2008（平成20）年7月には、関堂 充が筑波大学形成外科教授に割愛された。

2017（平成29）年12月には、小山明彦が福島県立医科大学形成外科教授に割愛された。

2018（平成30）年4月には、古川洋志が愛知医科大学形成外科特任教授に割愛され、2019（令和元）年4月に、愛知医科大学形成外科教授に就任した。

同年12月より、野平久仁彦が第4代同門会会長となった。

2021（令和3）年1月には、林 利彦が旭川医科大学形成外科教授に割愛された。

この間、北海道大学医学部形成外科は同門ならびに教室員と共に、さらなる飛翔を遂げ続けている。

教室創立年月日：1965（昭和40）年4月1日

歴代教授



初代教授 大浦武彦
(1931年-)
在任 1978年6月16日～1995年3月31日

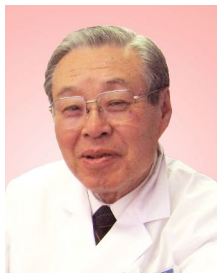


第2代教授 杉原平樹
(1941年-2020年)
在任 1995年9月1日～2005年3月31日



第3代教授 山本有平
(1959年-)
在任 2005年4月1日～

歴代同門会会長



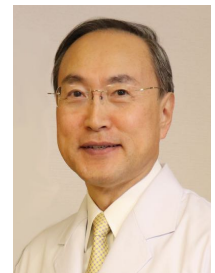
初代会長 浜本淳二
(1932年-2009年)
在任1985年5月1日～1995年11月30日



第2代会長 新富芳尚
(1943年-)
在任1995年12月1日～2007年11月30日



第3代会長 吉田哲憲
(1946年-)
在任 2007年12月1日～2019年12月14日



第4代会長 野平久仁彦
(1953年-)
在任 2019年12月15日～

北海道大学医学部形成外科同門会 役員

会 頭	山本有平
名誉会員	大浦武彦
同門会役員	
会 長	野平久仁彦
副会長	木村 中・川嶋邦裕・佐々木了
幹 事	國分一郎・竹野巨一・舟山恵美・堀内勝己・林 利彦
監 事	浅見謙二・松本敏明
最高顧問	新富芳尚
顧問	吉田哲憲

2022年12月11日現在

北海道大学大学院医学研究院形成外科学教室 教員スタッフ

教 授	山本有平
准教授・診療教授	舟山恵美
講 師・診療准教授	前田 拓
助 教・診療講師	石川耕資
助 教	三浦隆洋

2022年12月31日現在

主な主催全国学会

1980年

第1回国際熱傷学会アジア太平洋地区会議 (会長：大浦武彦)
 第6回日本熱傷学会総会 (会長：大浦武彦)

1986年

第29回日本形成外科学会学術集会 (会長：大浦武彦)

1990年

第8回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：松本敏明)

1991年

第14回日本美容外科学会総会・第54回学術集会 (会長：大浦武彦)
 第3回国際ティッシュエキスパンションシンポジウム (会長：大浦武彦)

1993年

第11回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：大浦武彦)

1995年

第22回日本マイクロサージャリー学会 (会長：新富芳尚)

1998年

第16回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：杉原平樹)

2000年

第43回日本形成外科学会総会・学術集会 (会長：杉原平樹)

2004年

第7回日韓国際形成外科学会 (会長：杉原平樹)
 第6回日本褥瘡学会学術集会 (会長：大浦武彦)

2007年

第30回日本美容外科学会総会・第100回学術集会 (会長：新富芳尚)

2009年

日本下肢救済・足病学会創立学術集会 (会長：大浦武彦)

2011年

第3回日本創傷外科学会総会・学術集会 (会長：山本有平)

2012年

第28回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 (会長：山本有平)

2014年

第32回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：木村 中)

2015年

第3回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 (会長：山本有平)

2017年

第40回日本美容外科学会総会・第130回学術集会 (会長：野平久仁彦)

2018年

第36回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 (会長：山本有平)

2019年

第62回日本形成外科学会総会・学術集会 (会長：山本有平)

2021年

第48回日本マイクロサージャリー学会学術集会 (会長：関堂 充)

2022年

第45回日本美容外科学会総会・第145回学術集会 (会長：山本有平)
 第40回日本臨床皮膚外科学会学術大会 (会長：南本俊之)

2023年

第11回日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 (会長：関堂 充) ~予定
 第19回日本血管腫血管奇形学会学術集会 (会長：古川洋志)

